

# Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

学校案内パンフレット原稿より

## 『国際的な教育プログラムを研究する高校』

県立高校「未来の学校」実践校に指定されました（令和2～6年）

国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築することを目標にしています。

- ・国際社会で活躍できる資質や能力の育成
- ・新たな時代における「生徒につけたい力」の明確化
- ・新たな学びの指導・評価方法の開発と共有
- ・海外進学支援体制等、幅広い進路選択への対応



具体的には3つのプロジェクトに分かれます

国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発する

『F-スタイル』の開発（F-教育課程 清水先生  
F-学習指導 小松先生

- ・IB認定校視察
- ・IBの要素を取り入れた授業実践

海外大学進学希望者のためのプログラムを構築する

『F-留学指導』の開発 F-留学指導 山田先生

などを通して『F-スタイル』に取り入れられるものを探していきます。

## なぜIBについて「研究」するのか

世界が国際バカロレアを推進する意義

- ・グローバル人材育成に有効な手法（課題発見・解決能力、論理的思考力・コミュニケーション能力など）
- ・国際通用性（高卒後、海外大学に直接入学する選択肢拡大）
- ・特徴的なカリキュラム、双方向型授業
- ・国内外の優秀人材の獲得
- ・大学の活性化

文部科学省が国際バカロレアを推進・支援

- ・DPの単位を1条校での単位に読み替え可能
- ・教員養成（特別免許状の授与）
- ・大学入学者選抜におけるIB（DP）スコアの利用
- ・IB推進のためのコンソーシアムを発足
- ・2022年までにIB認定校を200校に増加

国際教養科の今までのノウハウを活かしながら、他校にも開かれたカリキュラムを開発していきます。

風越高校はIBの認定校を目指しているわけではありません。地方の公立高校として「IBのエッセンス」を取り入れ、生徒の資質・能力を育成しようと研究を始めました。

番号	実施（取組）項目	十分な成果	前進	現状維持	
1	F 教育課程 IBユニットプランナーの研究	ユニットプランナーについて、全職員が理解し、活用することができる。	ユニットプランナーについて、半数以上の職員が理解し、活用することができる。	ユニットプランナーについて、一部の職員のみが理解し、活用することができる。	
2		担当教員全員がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができた。	担当教員の一部がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができた。	担当教員がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができなかった。	
3	F 進路指導	学校設定科目「世界の中の日本」作業部会	R5年度の開講に向けて具体的な学習内容とシラバスの検討が十分に進んでいる。	具体的な学習内容とシラバスの検討が進められているが、進捗は半ばである。	具体的な学習内容とシラバスの検討があまり進んでいない。
4		学校設定科目「アカデミックスキル」作業部会	R5年度の開講に向けて具体的な学習内容とシラバスの検討が十分に進んでいる。	具体的な学習内容とシラバスの検討が進められているが、進捗は半ばである。	具体的な学習内容とシラバスの検討があまり進んでいない。
5		留学講座（生徒）	生徒に十分に情報提供がされ、多くの生徒が独自企画を含む留学講座に参加している。	生徒に十分に情報提供がされ、半数以上の生徒が留学講座に参加している。	生徒に情報提供がされているが、留学講座に参加する生徒は少ない。
6		留学指導講座（職員）	留学指導の知識やスキルを習得するため、普通科含め多くの職員が講座に参加している。	英語科と進路係職員が講座に参加し、留学指導の知識やスキルを習得している。	英語科職員のみが講座に参加し、留学指導の知識やスキルを習得する職員は少ない。
7		海外語学研修 留学希望者コース検討	R4年度の実施に向けて充実した内容のコースを研修内に設置することができた。	研修内にコースを設置することができたが、内容をより充実させる必要がある。	コースの検討を行ったが研修内に設置することはできなかった。
8		Rubric指導法開発	多くの授業で生徒がルーブリックを使用した指導・評価により、主体的に授業に取り組んだ。	研究グループ職員がルーブリックを使用した授業を行い、生徒も評価の観点を理解している。	研究グループ職員がルーブリックを使用した授業を行ったが、主体的な学びにつながっていない。
9		Rubric研究	多くの職員のルーブリックを理解し、ルーブリックを使用した授業を行うことができる。	研究グループで研修を行い、ルーブリックを用いた授業単元計画を立てた。	ルーブリックについて理解している教員は少ない。
10	Rubric評価の開発・検証	探究学習において、生徒がルーブリック評価に基づき主体的で深い学びにつながった。	探究学習において、生徒がルーブリック評価の観点に基づき主体的に学ぶことができた。	探究学習において、生徒がルーブリック評価の観点を理解している。	